

発表事項：東南アジアにおける国際歯科医療貢献実地体験学習の取り組み

岡山大学歯学部卒業生の中に、広島市を拠点として東南アジアで歯科医療ボランティアとして活躍する JAVDO (<http://www.javdo.org/>) の岡山支部員として、ベトナムにおける口腔保険指導と緊急的歯科医療を実践している歯科医師がいる。彼らは、ストリートチルドレンの支援をしている組織「タオダン」(ホーチミン市に設置) や障害者施設などにおいて、無料の歯科治療や口腔保健指導を行うことで、ベトナム社会からはじき出された子供たちや心身衰弱した子供たちの自立支援を行っている。

岡山大学では、岡山大学ベトナム拠点事務所が開設され東南アジアで活躍する拠点ができたことによって、東南アジアでの国際貢献活動を行いやすくなった。歯学部においては、国際貢献歯学という授業科目が設置されており、岡山を拠点に国際的に活動している AMDA の菅波理事長が非常勤講師として長年、教鞭を執っている。さらに、一部の歯学部生は ODAPAS プログラムによって短期の海外留学を経験する。すなわち、岡山大学歯学部内には、将来、国際的な視野をもった歯科医師を育成する教育環境が整備されつつある。

本年、昨年に引き続き、JAVDO の国際活動、とりわけベトナムにおける国際歯科医療ボランティア活動に対して、国際歯科医療貢献の教育的配慮も鑑みて岡山大学歯学部生の積極的な参加を促す試みに対して、学長裁量経費(岡山大学教育研究プロジェクト、代表：大学院医歯薬学総合研究科・教授・高柴正悟)による支援を受けることとなった(第一陣として、本年9月13日から約1週間ベトナムにて活動予定)。このことは、岡山大学の東南アジアにおける国際貢献活動を活性化するとともに、それを担う後進を育成することに繋がると期待される。

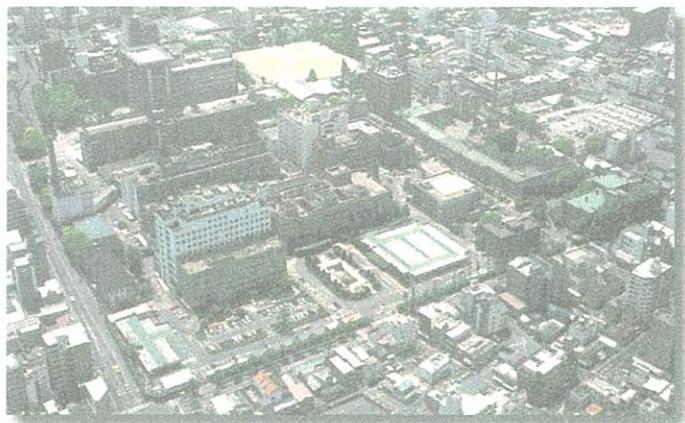
参考 URL: http://www.dent.okayama-u.ac.jp/gakubu/stakashi/Top_List/2007_Vietnam_Project.pdf

平成 19 年度 学長裁量経費（教育研究プロジェクト等：国際交流等経費）報告書

プロジェクト名：「東南アジアにおける国際歯科医療貢献実地体験学習」

担当部局： 歯学部

代表者： 大学院医歯薬学総合研究科（歯周病態学分野）
高柴正悟



東南アジアにおける国際歯科医療貢献実地体験学習



参加者募集!

体験期間

2008年 3月 1~4日 (3泊4日)

費用支援

学長裁量経費から支援あり!

歯学部卒業生の一部には、広島市を拠点として東南アジアで歯科医療ボランティアとして活躍するJAVDOの岡山支部員として、ベトナムにおける口腔保健指導と緊急の歯科医療を実施している先生がいる。彼らは自発的に国際歯科医療貢献を行っているので、歯学部生にとってこのような先輩を見本として、また教材として役立てない手はない!

(学長裁量経費申請書から抜粋改変)



2007年8月の状況 (5年次生が2名参加)

岡山大学歯学部の 教育の基本方針

- ① 豊かな人間性を有し
生涯キャリアアップを怠らない
良質な歯科医師の育成
- ② 学際性と国際性を備えた
研究者や歯科医学教育者の育成
- ③ 地域医療に貢献する
人材の育成

私にもできるかしら?

俺にできることは!

学部生の参加を募集しています。

(4年次生あるいは6年次生)

締切 2007年11月26日 (月)

連絡先

歯周病態学分野 高柴正悟

stakashi@cc.okayama-u.ac.jp

235-6675, 6677

Thanks Our President!



原資：平成19年度 学長裁量経費 (教育研究プロジェクト等) 「国際交流等経費」

レポート（ベトナムでの国際医療ボランティア）

歯学部 4 年次生

07416036 トムルホー・ツァサン

2008 年 3 月 1 日から 4 日の間、ベトナム国のホーチミン市における日本歯科ボランティア機構（JAVDO）の活動に、岡山大学学長裁量経費でのプロジェクト「東南アジアにおける国際歯科医療貢献実地体験学習」に応募して、参加してきた。このボランティア活動に参加した理由は、母国（モンゴル）にいた時に日本からの医療ボランティア活動での通訳者、アシスタントあるいは講義に学生として参加してきたからである。故に、常に支援活動を受ける側となっていた。そして、いつも「**どうして私たちのために、何を求めてボランティア活動してくれているのか**」ということに疑問に思っていた。したがって今回は、ベトナムへの活動を機会にこの疑問の答えを求め、視点を変えてみたいと考え、参加することを決意した。

歯科診療の一日目は、孤児院で一緒に行ったスタッフの診療の現場を見学した。子供たちの誘導や懐中電灯を使って明かりを照らしながら、見学した。二日目は障害児施設で同じことをする合間に、歯磨き指導にも挑戦した。

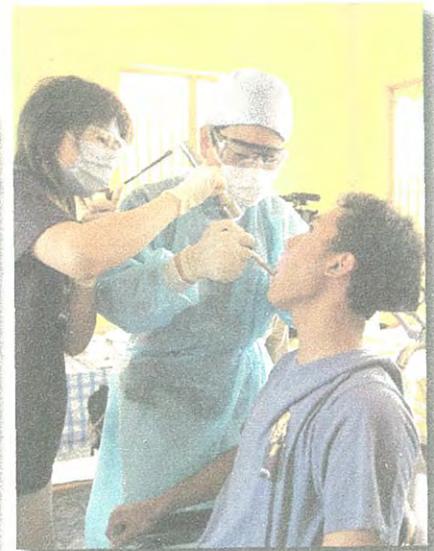
今回のボランティア活動から色々なことを感じ、色々なことが考えさせられた。まず、私が求めた質問の答えを、ボランティア参加者の私も含めて、目的はそれぞれ違うから他の場所から完全な答えを見つけ出せることはないと考えた。しかし、全般的に感じられることがあった。それは、**今まで親、先生、先輩、友人など周りの人から得た幸せを自分ができる形で社会に返し、それによってまた回りから幸せを得るサイクルを作っているように感じられた**。活動全部を通じて、人と人の関係の中で思いやりが基本であるように感じた。また、他国の事情を見ることによって、母国と日本の医療や社会の比較、考え方の見直しができる機会でもあった。一番インパクトを受けたのは、自分の勉強の足りなさであった。学問の面でも社会の面でも人間関係の面でも勉強、気配りが足りていなかった。また、（歯科）医療とは終わりのないものであることを改めて思った。一期一会から覚えること、縁があることの幸せを感じた。

歯科診療からは、材料、機械、時間に限られている環境の中、治療方法の選択肢が非常に限定されてしまう。このような場合だからこそ、患者の人生をその場に限り診るのではなく将来を考えた治療の優先順位をつけて治療していくことが大切であることがわかった。また、日本で普通しないような治療は応急処置としてするしかない状態にある人がいる。その人にとっては将来のことよりも現在の主訴に対して処置してほしいという場面を、観察した。ここから、どんな社会においても、医師が勝手に医療を行うのではなく、患者の意見、希望を重視して医療を行うべきであると改めて教えられた。また、歯磨き指導をしてみて、その場で行った行為について後から反省した。その例として、患者に知って欲しい、日常生活でやって欲しいことがたくさんあるが、それを全部いっぺんに伝えるのではなく、その人にとって、一番大切な点を絞ってきちんと伝えることがより効果的であることを感じた。また、患者と会話して、たとえ歯磨きのことでも、背景を聞かずに、勝手に寝かせて指導していた。言葉の問題があったからと考えるのではなく、せっかくな通訳が付いてくれたのだから、普段どういふうにやっているのかを聞いて訂正していけば一回だけの指導でも患者にとってよい結果につながったのではないかと思った。その場しか診るのではなく、もっと広い視野で見る能力を育成しなければならないとつくづく

感じた。物事を一生懸命やることが大切であるが、それに加えて一つ一つきちんとやっていかないと結果的に患者のためにならない、また、個人の能力に限界があり、無理せず他の方法を探して工夫することがとても大切であることを教えられた。

最後に、誰もができる体験ではなく、大学、先生方、一緒に行った参加者の皆様に恵まれ、感謝の気持ちでいっぱいである。ボランティアを通じて感じたことを今後の人生につなげていきたいと思う。

Long Hoa 教育孤児施設での活動を終えて
(現地での在留日本人支援者(左端)を含めて)

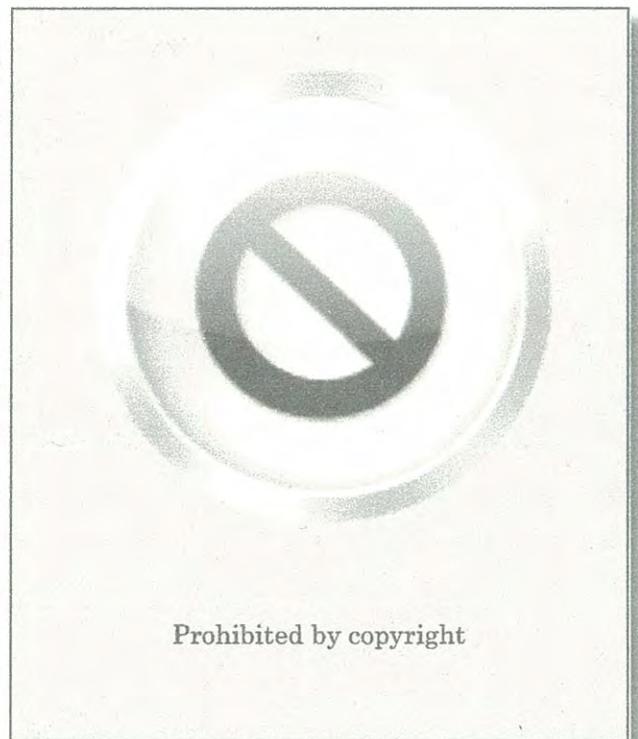


ライトを照らしての診療介助

【指導教員評】

私費外国人留学生である本学生は、社会への貢献に対する志が強いと感じられた。特に、レポートの中で記述している「周りの人から得た幸せを自分ができる形で社会に返し、それによってまた回りから幸せを得るサイクルを作っている」という表現に、「Pay It Forward」という映画(右図)を思い起こした。このような心構えを持つことで社会を変革(改善)していこうとする学生を育てることは、大学教員としての教育の醍醐味であるとも言える。本プログラムにおける学生の反応によって、逆に教員側が教えられた例であろう。

学生の良心が素直に表現され、自身がそれに気づき、そしてその後の行動に影響を与えるという教育スタイルを、今後も持続的に行うような制度を本学に根付かせたい。



Prohibited by copyright

課外活動としてのJAVDOの活動に参加して

歯学部 4 年次生
中田真吾

今回、JAVDOの活動に参加して、ベトナムでの歯科医療の実態、ボランティア活動の意義、また自分の将来の歯科医師像について、非常に考えさせられました。その意味において、大学に在るだけでは感じる事の出来ない貴重な体験ができたと思います。

まず、ホーチミン市で孤児院と障害者施設を回り、歯科ボランティア活動を行いました。ここで目にした孤児は80人くらい、職員も比較的多かったと思います。しかし、環境的には上下水道の設備等も無く、衛生的とはいえない状況でした。子供たちの口腔内は、現在の日本ではあまり見られなくなってきた重度のう蝕や歯肉炎の症例がほとんどでした。治療準備のアシストに迫われ、食生活やブラッシングの習慣などはどうだったのか、指導等はなされているのか、という部分に目を向ける余裕がなかったことを残念に思っているところです。

また、ホーチミン市内を見渡しても、歯科医院はほとんど見当たりませんでした。経済界では、多くの領域で中国とインドに続き、ベトナムが注目されていると聞きます。しかし、歯科医療についてはまだまだ十分な体制でないことが感じられました。この現状を変えるにはベトナムの歯科医療制度の改善が重要だと思えますが、現時点で治療を受けられない人達の為にはボランティアは非常に重要な存在だと感じました。ただ、先生方が懸念していたようにボランティアだけでは患者の経過を追えないという解決しようのない問題も残ってしまいます。ボランティア活動だけではなく、国としての自立の支援、例えば歯科医療技術、食生活等の生活、仕組みの構築など、多くの面での指導者を養成するなどの、支援のあり方が重要なのかもしれません。

現在、日本国内においては歯科医師過剰で、これからどのように歯科医療業界で生き残っていくかということが関心事項の一つです。しかし、世界に目を向けてみるとベトナムのように歯科医師の不足している国もたくさんあります。日本の歯科医療の技術は世界的に見ても非常に高いレベルだと思います。このことを頭に置き、私たちはもっとグローバルな視点で将来を考えるべきかもしれません。

この行程の中で、本学部の卒業生である中條先生に、ボランティアを始めたきっかけをお聞きすることができました。初めは今回私たちがこのボランティアに参加したいと思ったものと同じような、小さな関心がきっかけだったとおっしゃっていました。その小さな関心から始まり、7年間も活動を続けているという姿には、困っている人を救いたいという人間の本来あるべき心を見ることができました。一步を踏み出し何かを始めることは、非常にエネルギーが必要なことですが、持続させるとやがて大きな一步になることを実感しました。今後、自分がボランティア活動をしたいと思ったときは、思い切って一步踏み出したいと考えています。

今回の経験で、自分の歯科医師としての可能性と視野を広げることができました。先生方の利害を超越した、いかに社会貢献できるかという姿に非常に感銘を受けました。高柴教授も中條先生も自分の理想の歯科医師像を強く持っておられました。私も理想の歯科医師像を早く見つけ、その目標に向かって全力で努力していきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただいた高柴教授、中條先生、中條歯科医院スタッフの皆様、岡山大学歯学部歯周病態学分野に心から御礼を申し上げます。

子どもたちとの食事（一日目の施設長の挨拶中）



（テーブルで share した昼食）



昼食会での歓迎と感謝の式

（二日目の施設長から中條先生への花束贈呈）

（テーブルには、本学学生と現地学生支援者が同席）



【指導教員評】

開発途上国における支援のあり方にまで言及している。このような広汎な思考は、当該学生の日常生活に基づいていると考える。本学における当該学生の日常生活は、時に行き過ぎる行動となる場合があるが、その反面として与えられたもの以上に周囲の情報を収集して自ら行動していることの表れであろう。

将来の歯科医療の展開にまで考えているようであり、4年次生としてはよく考えている。この意味でも、今回の岡山大学学長裁量経費でのプロジェクト「東南アジアにおける国際歯科医療貢献実地体験学習」での経験は、当該学生の今後の成長に影響を与えたと考える。

日常的な食事の風景



職名	教授	氏名(代表者)	高柴正悟	配分額	2,000 千円
区分 (○を付す)	1. 教育研究プロジェクト経費 2. 地域貢献支援事業費 3. 大学改革推進経費 ④. 国際交流等経費				
プログラム 名称等	東南アジアにおける国際歯科医療貢献実地体験学習				
A 当初計画の概要	種々の点で存在した国際歯科医療貢献の教育機会を、線で有機的に結んだ実践的な教育システムとして仕上げることを計画した。	a 当初計画に対する達成度	種々の点で存在した国際歯科医療貢献の教育機会を、線で有機的に結んだ実践的な教育システムとしようとした。		
	<ol style="list-style-type: none"> 実践セミナーの開催(菅波非常勤講師と中條OBを含む) <ul style="list-style-type: none"> 受講した歯学部生から適性がある者を選出 歯科医療を国際医療ボランティアに定着させる方策の検討(教員間での意見交流) 同窓生(中條OB)による事前の演習 <ul style="list-style-type: none"> 心構えと技術的な指導 教員とともにボランティア組織の活動に参加(ベトナムでのJAVDOの活動へ参加) <ul style="list-style-type: none"> 実地体験学習 レポートにまとめる 今後の課外学習制度としての定着への方策 <ul style="list-style-type: none"> 単位認定等の配慮方法の検討 岡山大学の将来戦略への応用 <ul style="list-style-type: none"> 岡山大学ベトナム拠点事務所の活用方法の検討 岡山大学の東南アジアでの活動を活性化のための後進を育成方法の検討 東南アジアからの学生(学部・研究科希望者)との交流 		<ol style="list-style-type: none"> 実践セミナーの開催(菅波非常勤講師と中條OBを含む)できた <ul style="list-style-type: none"> 適性がある学生を選出できた 歯科医療を国際医療ボランティアに定着させる方策の検討を教員間で行った 同窓生(中條OB)による事前の演習を受けた <ul style="list-style-type: none"> 心構えと技術的な指導を受けた 教員とともにベトナムでのJAVDOの活動へ参加した <ul style="list-style-type: none"> 実地体験学習を行った レポートにまとめさせた(JAVDOにも提出:歯学部のホームページにも掲載) 今後の課外学習制度としての定着への方策を検討する材料を学部教務委員長に提出した <ul style="list-style-type: none"> 単位認定等の配慮方法の案を提出した 岡山大学の将来戦略への応用を考えた <ul style="list-style-type: none"> 岡山大学ベトナム拠点事務所の活用はタイミングが悪く、本学事務局の担当者との意見交流にとどまった。 岡山大学の東南アジアでの活動を活性化のための後進を育成の足がかりを得た 東南アジアからの学生(学部・研究科希望者)との交流を行い、希望者の存在を確認し、岡山大学の連絡先を知らせた。 <p>今後は継続的な教育制度として定着させることを考える必要がある。なお、中條OBの今後の協力を得ることに關しては了承を得ている。</p>		
B 期待される成果	<p>岡山大学ベトナム拠点事務所の活用によって岡山大学の東南アジアでの活動を活性化するとともに、それを担う後進を育成することになる。また、東南アジアからの学生(学部・研究科)の勧誘にも繋がる。</p> <p>この活動は、中期目標・計画の国際水準の教育および社会と関連する教育に該当する。さらに、少人数の高度専門教育に該当する。総合的には、国際交流の活性化に相当する。</p> <p>この活動の報告書を、以下の歯学部ホームページ上に公開した(下記は印刷用の45.4MBファイル;閲覧用は…Project_s.pdfである)。したがって、他の学生および教職員に興味を抱かせて、今後の活動の活性化が期待される。(http://www.dent.okayama-u.ac.jp/gakubu/stakashi/Top_List/2007_Vietnam_Project.pdf)</p>				

<p>c 教育・研究上の成果(実績)</p>	<p>本プロジェクトが学長に採択される前から、2007年8月には学部生を JAVDO 岡山支部のベトナムでの活動に参加させる準備を開始し、同年8月のお盆休暇を利用して2名の歯学部5年次生がベトナムでボランティアに参加した。この内容の一部を、2008年2月に発行された OU Voice に学生の一人が記述している。さらに、この5年次生の活躍を伝え聞いて、本プロジェクトへの参加者を募ったところ、臨床講義が集中している4年次生から5名、臨床実習中の5年次生から2名、そして臨床実習が終了間際に国家試験前の6年次生から2名が応募してきた。さらには、卒業研修中の研修医が2名と大学院生が1名ほど希望しているとのことであった。ベトナムでの行動の機敏性や安全性を考慮して参加者を絞り込んだのであるが、学業や研修への影響、クラスでの雰囲気への影響、現場での安全性、さらには保護者からの同意等を考慮して、最終的には、4年次生が2名、6年次生が2名、そして大学院生が1名の参加者を設定した。</p> <p>一方、国際医療ボランティアに関する認識を統一するために、中條先生はもちろんのこと、前述の AMDA の菅波茂先生に加えて衛生学の土居弘幸教授にも参加していただき、「国際医療貢献と大学院 GPJ」の連携を考える小シンポジウムを開催した。歯学部に関連する教職員および学生が集まり、国際医療貢献の在り方を考えた。特に、ボランティア活動を受ける人たちにとって押しつけにならない必然性の考え方と、それを実践に移すための心構えと実生活を充実させておくことの大切さに関して、意見を交換した。さらには、JAVDO を含めて歯科医療からの国際医療貢献をどのように発展させるか、AMDA の活動との連携も含めて検討していくことが同意できた。私たち大学教員は、それをいかに教育へ取り入れるかも検討課題としていただいた。</p> <p>ベトナムに到着すると、その夜の内に翌日の準備のために、JAVDO が保有する機器の整備と現地のボランティアの方々との調整を行った。日本の NPO 法人が組織的に、ベトナム政府組織と協同しているだけのことはあり、組織的に行動できていた。翌日は孤児院での活動を行った。詳細は学生レポートに譲る。大きな問題点として、4年次生の学生が活動開始直後に針刺し事故を起こしたことがある。これは、医療現場の実践的教育を受けていない段階の学生を同行させる弱点であった。出国前の事前教育および当日の注意内容として、感染対策への配慮と自分の能力を越えた内容を行わないことを何度も繰り返してはいたが、他者(孤児のみならず周囲の医療従事者)への気配りが大きすぎたのであった。日本ほどは医療記録が充実していないので、対象の子どもの健康状況を詳しく知る由もなく、当該学生へは救急対応を行うのみであった。なお、帰国後は保健管理センター鹿田室でのフォローアップを受け、血液検査を継続している状況である。2日目は半日の活動でもあり、慣れたこともあり、現地の学生ボランティア(日本語教育を受けており、日本の大学への進学志向があった)との交流を行った。そして、その午後は機器の整備と格納を行った。参加した学生は、このような裏方の仕事にも参加して、準備の大切さと重要性を認識したものと思う。</p> <p>大学が国際医療ボランティアに関する教育を学部生に行う場合には、以下のことを考える。利点は、2つある。①学生の志がさらに向上することである。②学生自身の目標を設定できる機会になることである。これらは、学生レポートから察することができる。欠点あるいは注意することは、2つある。①医療の実践を行っていない段階では事故を起こしやすい。②継続的なボランティア活動ができるように記録の充実が必要である。これらは、実体験に基づくものである。</p>																											
<p>e 将来展望</p>	<p>以上のことを考えていくと、学生主体の組織をつくり、卒業生のボランティア活動に参画するという体制を構築することを提案したい。年度のサイクルを考慮すると、①春休みから5月連休頃にかけて参加者の募集、②夏休みに準備とトレーニングおよび資料の整理を実施、③年度末の定期試験を終えた頃に現地でのボランティア活動の実践、④春休みにまとめと次年度の準備、という行動サイクルが考えられる。学業への負担を減少させたいうえで、現地での活動の準備時間や安全性(季節的には乾期が望ましい)を考えたものである。</p> <p>今後は、今年度本プロジェクトに参加した学生を中心に後輩を育成するという学生内の課外活動組織を構築し。教職員と学外の同窓生の支援によって岡山大学における教育の特色としていきたい。さらには、現地の学生との交流へと、そして卒業後の社会人となっても交流できる国家間の橋渡しの育成へと、発展させたいと長期展望を持った。</p>																											
<p>f 当初事業計画に対する実施状況、成果など事業全体の達成度 100 %</p>																												
<p>関係教員等 代表者※印</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所属・職名</th> <th>役割分担</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 高柴正悟</td> <td>大学院医歯薬学総合研究科・教授</td> <td>計画立案と研究科内調整(副研究科長として)</td> </tr> <tr> <td>滝川正春</td> <td>大学院医歯薬学総合研究科・教授</td> <td>学部内調整と学部代表(学部長として)</td> </tr> <tr> <td>北山滋雄</td> <td>大学院医歯薬学総合研究科・教授</td> <td>教務システム内の調整(教務委員長として)</td> </tr> <tr> <td>佐々木朗</td> <td>大学院医歯薬学総合研究科・教授</td> <td>AMDA と附属病院との調整(副院長として)</td> </tr> <tr> <td>菅波茂</td> <td>歯学部非常勤講師(AMDA 理事長)</td> <td>AMDA からの国際医療貢献の指導</td> </tr> <tr> <td>中條新次郎</td> <td>歯学部 OB(2期生, JAVDO 岡山支部)</td> <td>ベトナムでの歯科医療支援の実践</td> </tr> </tbody> </table>	氏名	所属・職名	役割分担	※ 高柴正悟	大学院医歯薬学総合研究科・教授	計画立案と研究科内調整(副研究科長として)	滝川正春	大学院医歯薬学総合研究科・教授	学部内調整と学部代表(学部長として)	北山滋雄	大学院医歯薬学総合研究科・教授	教務システム内の調整(教務委員長として)	佐々木朗	大学院医歯薬学総合研究科・教授	AMDA と附属病院との調整(副院長として)	菅波茂	歯学部非常勤講師(AMDA 理事長)	AMDA からの国際医療貢献の指導	中條新次郎	歯学部 OB(2期生, JAVDO 岡山支部)	ベトナムでの歯科医療支援の実践						
氏名	所属・職名	役割分担																										
※ 高柴正悟	大学院医歯薬学総合研究科・教授	計画立案と研究科内調整(副研究科長として)																										
滝川正春	大学院医歯薬学総合研究科・教授	学部内調整と学部代表(学部長として)																										
北山滋雄	大学院医歯薬学総合研究科・教授	教務システム内の調整(教務委員長として)																										
佐々木朗	大学院医歯薬学総合研究科・教授	AMDA と附属病院との調整(副院長として)																										
菅波茂	歯学部非常勤講師(AMDA 理事長)	AMDA からの国際医療貢献の指導																										
中條新次郎	歯学部 OB(2期生, JAVDO 岡山支部)	ベトナムでの歯科医療支援の実践																										
<p>経費の 執行状況 (配分予算 額について記載)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>予算額</th> <th>執行額</th> <th>差額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旅費・滞在費</td> <td>300千円</td> <td>281,130円</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">/</td> <td>引率教員等の費用</td> </tr> <tr> <td>学生支援費</td> <td>700千円</td> <td>560,600円</td> <td>学生渡航滞在費の援助(立ち上げ期のみもの)</td> </tr> <tr> <td>セミナー謝金等</td> <td>200千円</td> <td>17,633円</td> <td>学外からの講師への謝金等</td> </tr> <tr> <td>医療支援器材一式</td> <td>800千円</td> <td>1,140,637円</td> <td>支援用歯科材料等購入・運搬費</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,000千円</td> <td>2,000,000円</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	予算額	執行額	差額	備考	旅費・滞在費	300千円	281,130円	/	引率教員等の費用	学生支援費	700千円	560,600円	学生渡航滞在費の援助(立ち上げ期のみもの)	セミナー謝金等	200千円	17,633円	学外からの講師への謝金等	医療支援器材一式	800千円	1,140,637円	支援用歯科材料等購入・運搬費	計	2,000千円	2,000,000円	0	
区分	予算額	執行額	差額	備考																								
旅費・滞在費	300千円	281,130円	/	引率教員等の費用																								
学生支援費	700千円	560,600円		学生渡航滞在費の援助(立ち上げ期のみもの)																								
セミナー謝金等	200千円	17,633円		学外からの講師への謝金等																								
医療支援器材一式	800千円	1,140,637円		支援用歯科材料等購入・運搬費																								
計	2,000千円	2,000,000円	0																									